

第2回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事要旨

(1)会議名称	第2回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議							
(2)開催日時	平成27年8月25日 14:00～16:30							
(3)開催場所	議会棟2階議長応接室							
(4)出席者	委員							
	出	山内 智	出	熊田 雅弘	出	大炊三枝子	出	川口 伸一
	出	林 健一	出	門脇伊知郎	出	永嶋久美子	出	山岸 由紀子
	出	坂巻 弘一	出	布施 高広				
	事務局							
芹澤企画財政部長 木下企画課主幹 佐野企画課主査長 小嶋企画課主任								
(5)議題	1. 我孫子市人口ビジョン（案）について 2. 基本目標・基本的方向・施策・主な取組（案）について 3. 今後の進め方について							
(6)公開・非公開	公開							
(7)傍聴人の数	1人							

(8)会議の内容

事務局より、若い世代の住宅取得補助金申請状況について説明があった。

意見等

- 意見、質問特になし。

事務局より、地方創生に係る意見について説明があった。

意見等

- 意見、質問特になし。

1 我孫子市人口ビジョン（案）について

事務局より、人口ビジョン（案）について説明があった。

① 人口減少が地域社会に及ぼす影響について

意見等

- 20 ページについて、人口減少による悪い影響が書いてあるが、一方でプラスの影響もあるのではないかと。人口減少によって生じる影響は悪いことばかりではない、という点を入れ込んだ方がよい。（布施委員）
 ⇒ご指摘のとおり、リード文に書いてあるプラスの面も想定される。書き方は検討する。（木下主幹）

- 若い世代の人口が減少しているが、39 ページをみると人口ピラミッドは将来的に均衡的になる。1人の若者が1人の高齢者を介護するくらいの比率であれば、将来は人口減少をしても大きな問題はないのではないかと思う。むしろ、現状で、高齢者を少ない若者で支えなければならないことが問題である。(大炊委員)
- どちらかと言えば、若年人口を増やそうという点が大きく、高齢者への対応は、介護・福祉などへの対応といった面だけで良いのか。高齢者の社会参加支援の議論があまり入っていない点が気になる。(林委員長)
- 地域コミュニティの低下とあるが、高齢者でも車が運転できれば、コミュニティがつくれるのではないか。我孫子市内だけで考えない方がよい。例えば、柏市のフィットネスは4~5人のグループができたりするので、一概に地域コミュニティが低下すると言えないのではないか。また、まちなぎわいの減少とあるが、近くて便利な店もあるので、駅前の店とは趣向が異なっても、まちなぎわいが減少するとは思えない。逆に言うと、我孫子市はもっと近くて便利なものを提供していかないといけないかもしれない。農家については、我孫子市の中で農業法人をつくり、民間事業者が管理することはできる。市か事業者かどちらが主導するのかわからないが、必要であると思う。本ページには人口減少に対する暗い内容が多いが、1人あたりの手当てが増えたり、無駄が減ったりするので、少ないコストで同じ支援を受けられるのではないか。(山内委員)
- 若者と老人が1:1では支えきれない。だから人口減少は困りますね、人口を増やしましょうという議論になるが、一方で元気な高齢者を増やすことでそれを変えることが出来るのではないか。また、今後はそうした元気な高齢者を地域の中で活躍していただくといった視点があっても良いのではないか。(布施委員)
- 人口減少が地域に与える影響の部分では、今後、国が講じるであろう施策について、踏まえているのか。例えば、固定資産税の増加による空き家増加などの影響、マイナンバー制度の導入が高齢者に与える影響、東京オリンピックとの関係などを加味できないか。長期ビジョンの中で難しいかもしれないが、国の施策を踏まえるといった視点が必要ではないか。(熊田副委員長)
- 人口減少により生涯賃金の格差が出てくるのではないか。多岐に渡って経済に影響してくる可能性があるので、その意味で、生産年齢人口の減少は避けるべきである。ここをどうクローズアップするかで、実施したい施策が見えてくるかもしれない。それができなければ、個人個人のスキルに応じた社会集合体になってくるのではないかと思う。(熊田副委員長)
- 市民活動の中心で活躍する高齢者には、時間とパワーがある。若者は時間がないので、イベント当日は参加できても準備段階は難しい。ただし、このような活動を継続していけば運営も若者にスライドし、次に繋がっていくのではないか。また、高齢者にとっては介護予防にもなるし、リタイア後の元気の源なので、高齢者が中心になることは悪いことではないし、高齢者が知恵を若者につなげるということで、世代間交流の意味でも良いと思う。現在は、高齢者数と若者数の大きなギャップを解消することが必要で、出生数を増やすとか、若者を増やすといった根本的な解決が必要である。(大炊委員)
- 住んでいる人を流出させないためには、我孫子への愛着を持ってもらうことが必要である。コミュニティの活動が低下した結果、愛着が減るといったことは避けたい。(林委員長)

- コミュニティの低下との記述は、何が低下するのか分かりにくいのか。活動が縮小するのか、構成員の絆（機能）が縮小するのか。（林委員長）
⇒地域だけ、市内だけの閉じた話ではなく、コミュニティの書き方については事務局で検討する。担い手不足と書いているが、コミュニティの母集団が減るということもある。もうひとつは、平成 25 年度に実施した自治会へのアンケートによると、役員が高齢化している、担い手がないなどの意見が出てきている。（木下主幹）
- 大学でも我孫子市内のイベントに参加させてもらったが、どの自治体も実行委員は高齢者である。我孫子市は市民活動が活発であり、実行委員を務めるような高齢者の方は、複数の活動を兼任していることが多い。また、若い世代もイベントには大勢来てくれる。しかし、大人が楽しめるイベントでは、子どもがおとなしくしていることが難しいので、子どもが遊べるスペースをつくるなど工夫すると子育て世代が多く集まる。イベントに参加してくれた親御さんが、次は運営の立場に入ってくれる可能性もある。さらに、我孫子市は音楽の活動が盛んであり、手賀沼のほりでも音楽イベントを行っている。参加した小中学校の子どもが、運営する側に興味を持って、次につなげることなどがコミュニティの活性化につながるのではないかと。（永嶋委員）
- 出生数は、今後あまり大きく変わらないのか。柏市では年間 3,500 人程度が出生しており、全員を把握するのは難しい。一方で、我孫子市では年間 900 人程度の出生であるので、全員に目が行き届くというメリットがあるのではないかと。（山岸委員）
- 下水道などのインフラは、人口が減れば 1 人当たりの負担は増えるが、人口に見合った公共施設等の整備を行うなど、効率的な公共施設の整備運営を行うことで負担を軽減していくことも可能ではないかと。（布施委員）
⇒効率的な公共施設の在り方としては、方向性 3 の「行財政運営においても効率化を図っていく」で読めるようにしている。我孫子市では、公共施設等総合管理計画の策定を予定している。（木下主幹）
- 学校の統廃合について記載されているが、我孫子市では中学校 6 校、小学校 13 校あるが、東と西で人口が違うので、統廃合により学区が広がると、通学時の安全面が問題となる。そのため、学校を廃止するのではなく、余剰教室を有効活用することを考えたほうが、子どもにとっての安心、安全が増えると考えられる。（坂巻委員）
⇒「学校の統廃合」としているが、統廃合を含めた施設配置の再検討という意味である。多様な視点から検討していきたい。（木下主幹）
- 小中一貫を昨年からはスタートしているが、現状はどうなっているか。（永嶋委員）
⇒布佐地区では、昨年度から分離型の小中連携をモデルとしてスタートしている。分離型なので、1 つの建物内で授業等をしているわけではなく、お互いの校舎を行き来したり、行事を一緒にしたり、カリキュラムの面で小学校から中学校に円滑に移行できるように連携している。今後、市内全校に広げていく予定である。（木下主幹）

② 目指すべき将来の方向について

意見等

- 東西格差の是正とあるが、市の東側ではいい意味での田舎性を活かすと、戸建て住宅を持てる可能性が高い。住宅開発の余地はあまり残されていないとなっているが、核家族化を解消する手段としては良いのではないか。2,000万円台で購入できるので、今の施策に輪をかけて、若い世代にアピールできるような工夫をしていければ良い。(熊田副委員長)
- 週末に我孫子に遊びに来る友人がいるが、不便ではない田舎が味わえる良い点が、東側にはあるようだ。(熊田副委員長)
- 週末だけでよいのか。(大炊委員)
- きっかけは週末でいいのではないか。いざ住みたくなった時に住める住宅があることは重要である。(熊田副委員長)
- 田舎性の魅力が知られていないとすれば、PRし定住化につなげたらどうか。(林委員長)
- 戸建て住宅を選びたいという意向が重要なのではないか。集合住宅の安全性が懸念されている中で、災害に強い戸建て住宅が持てることが重要である。また、田舎や自然に囲まれた生活ができるまちであることを、十分にアピールできているか疑問である。(熊田副委員長)
- 流山市のおおたかの森は、自然豊かなまちとして、東京の人によくアピールしている成功例である。我孫子はPR不足ではないか。また、通勤の面でネックがあるのであれば、交通の便の問題も解決していくような施策も必要ではないか。(大炊委員)
- ないところに電車を通すのは無理なので、利便性が悪いと思わせない工夫が必要なのではないか。例えば南新木のマルヤなどは、魅力的な商品を置いている。若い世代も十分通勤可能な範囲ではあると思う。(熊田副委員長)
- ここで議論することは、具体的な取組みを考えることなのか、それとも方向性なのか。(山岸委員)
⇒2060年を見据えた将来の方向性をまとめたのが、今回の人口ビジョンとなっている。
具体の施策については、次回以降の総合戦略で議論させていただければと思う。方向性などについて、反映できるようなものは意見を反映していきたいと思う。(木下主幹)
- 方向性2について、保育園や病児保育といったシングルマザーへの支援をいれたほうがよい。転出を防ぐ意味では重要な視点である。(山岸委員)
- パートで働いていたシングルマザーが、正社員雇用になるために、他自治体の会社に移ってしまったケースがあった。人材の確保は本当に重要なことだと思う。(熊田副委員長)
- そごう千葉店のグルメ博覧会に大学で開発した商品を出店したとき、「我孫子」の文字が読めない方がいて、ショックを受けた。やはり地名のPRができていないと思う。食育推進基本計画等をみていると、我孫子市は真面目に考えた良い計画を策定しているのに、計画書名に「我孫子」の名前がなかった。情報発信すれば伝わるという事ではなく、我孫子を知ってほしい、という立場にならないと伝わらない。我孫子のブランド化のためにも、注目を集める、伝えるためにはどうするか、を考えないといけない。(永嶋委員)
- 農業分野でも我孫子の農業をどう進めていくか真剣に議論している。鎌倉では、我孫子と全く同じエコ農産物の取り組みをしているが、鎌倉野菜というブランドがあるので売

れている。我孫子野菜としても売れるかどうか。我孫子の名前自体をブランド化できる取り組みを、農業分野だけでなく全分野で取り組んでいかなくてはならない。イベントもたくさんあるし、市民の意識も高いので、もったいない。(大炊委員)

■ 2060 年は今から 45 年後ということで、年少世代に対するアプローチとして、高齢者を小学校の道徳教育に活用するなど、親の世代が、子どもが大きくなった時にどういった社会になっていくのか、しっかり伝える必要がある。(熊田副委員長)

■ 企業誘致も必要ではないか。大規模宅地開発が難しいにしても、企業誘致できれば、周辺の人々が来るかもしれない。空き家等今あるものを有効活用することももちろん重要であるが、新たなものは予定しないのか。(永嶋委員)

■ 現在、住工混在解消ということで動いている。NEC の用地を活用するプロジェクトもある。我孫子で雇用の場があるのはいいことである。(熊田副委員長)

⇒企業誘致という文言は入っていないが、雇用の場を確保ということで記載している。(木下主幹)

③ 人口の将来展望について

意見等

■ 将来人口については、何かしらベースを作らないと推計ができないと思うので、アンケートを活用した出生率の設定として、今の推計で良いのではないかと。(川口委員)

■ 出生率 2.2 を想定しているが、国の長期ビジョンにおいて示された 2.07 を上回っているため、疑問に思う部分がある。市としては、人口の目標をどの辺に見据えているのか。(布施委員)

⇒9 万人程度を想定している。ただし、出生率 2.2 が 2040 年に達成できるか、その先になるかはわからない。(芹澤部長)

■ 千葉県の人ロビジョンでもまだ出生率の数値は提示されておらず、国と同じ出生率 2.07 を使う可能性が高いが、そういった状況の中で出生率 2.2 を用いるのはかなりチャレンジではないか。(布施委員)

⇒アンケートによる子どもを持ちたい数と、出生率との関係については再度精査する。(芹澤部長)

■ 出生率の設定の理由を明確に記載したほうが良い。(熊田副委員長)

■ 現実的には、子どもが 3 人の家庭をどれだけ増やせるかが課題である。(川口委員)

■ 子どもの数が 3 人となると、女性が仕事を続ける場合に、出産する時期はできるだけ若い方がよい。晩婚化を防ぐ、晩産化を防ぐ、あるいはその広報などが必要かもしれない。(永嶋委員)

■ 子どもの数について、湖北は 3 人が多いが、我孫子・天王台では 2 人が多いと思う。子どもの数については、東と西とで差が出るのではないかと。(熊田副委員長)

⇒クロス集計結果がでているので、結果を次回までに報告する。(芹澤委員)

2 基本目標・基本的方向・施策・主な取組（案）について

事務局より、基本目標・基本的方向・施策・主な取組（案）について説明があった。

意見等

- | |
|--------------|
| ■ 意見、質問特になし。 |
|--------------|

3 今後の進め方について

事務局より、今後の進め方について説明があった。

意見等

- | |
|--------------|
| ■ 意見、質問特になし。 |
|--------------|

以上